

**July 27, 1972**  
**Record of the First Meeting between Takeiri  
Yoshikatsu and Zhou Enlai**

**Citation:**

"Record of the First Meeting between Takeiri Yoshikatsu and Zhou Enlai", July 27, 1972, Wilson Center Digital Archive, 2001-298, Act on Access to Information Held by Administrative Organs. Also available at the Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Obtained by Yutaka Kanda and translated by Ryo C. Kato. <https://digitalarchive.wilsoncenter.org/document/118833>

**Summary:**

Zhou Enlai met with Takeiri Yoshikatsu and he mentioned the international status of Taiwan while claiming that "the realization of relations between Japan and China is the desire of all citizens."

**Credits:**

This document was made possible with support from MacArthur Foundation

**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan  
Transcript - Japanese  
Translation - English

外部

1/1/94

秘密指定解除  
情報公開室

1972

7月27日 16.00 ~ 19.00

## 竹入 周会談 (才一回)

○は 周

△は 竹入

○ 交わりは浅いから 中日両国人民の願望も表していることを嬉しく思う。重大な任務をもって来られたので 早く直接お目にかかって話しなければと思っていました。田中首相は野党や議連の中日友好運動をおおげさな評価しているのですね。貴方とか 努力の道をつくったと見ているのですね。田中首相は自民党内で中協で話をもじまいたから あうやうの方向に関心を与えて (心を配って) 話をもっていると思う。竹入先生の見方として 日本の政治状況の雰囲気をもたうすとかいふ出来事ではないか？

△ 松村先生をはじめ 古井先生等が長い間 中日友好を積み重ねてきたことを評価していることに間違いはないと思います。私も象を建てた石壇の石の一つであり 足菜に思っています。

○ 田中首相もこの平は十分考へに入っている日中

2

国交を実現することは、全人民の願望だと思ふ。大平外相も、日本人民の初向を認識している。

それは20年来、野党と党の一部の先生方にもあつたことではないと思います。公明党は大きな盡力もされました。竹入先生が右翼に刺された平は、その証拠です。竹入先生に慰問の意を表します。長い経験から、真にそれを上手くやっていたのか、そうでないかは区別をしています。杉内閣が成立したその日から、田中首相は外交面で激務の中に平和を求め、主張しています。それは正しいと評価します。私は直に9日の宴会で田中首相の発言を歓迎いたしました。

△ 周総理の友好意に感謝しています

○ 中国に来て23年になりますか。そうゆう時に中国へ答へたのは2回あります。

第一回目は鳩山内閣の時、高崎先生をバンドン合衆に派遣したときです。その時、直接高崎先生にその行動を歓迎する旨伝えました。鳩山内閣は日ソ問題に努力していたので力が入りませんでした。田中首相は日中問題に力を入れ、日中国交回復は大事業だとしています。私もそれに答へなければなりません。田中首相の日中国交回復を願う気持ちが間違いないと思います。

ニ宮先生に 田中さんへの伝言を頼みました。  
委員長も承知でしょう。

△ 23日にニ宮が帰国。田中通産大臣と私と  
ニ宮の三人で 24日に会い、向違ひなく伝えた。

○ 有かとうございました。委員長副委員長が大変協  
力をしています。

△ ニ宮への周总理の伝言が、田中首相に勇氣を  
与えさせたと思います。

○ 内因が大事で必要だと思います。

△ 周总理の伝言が決意させた要因であると思  
います。

○ 戦後27年、新中国が生まれて23年になりました。  
海一つへたてた二つの国が、今この現象を続  
けようとは出来ないと思います。廖先生に話した  
ことは私も目を通しました。今日、補足する可  
いありませんか。

△ 廖先生に申し上げた以上の補足は有ません。  
公明堂は日中復交三原則を掲げ強い平  
を以て来りました。

4

田中首相、大平外相に会って、この件を話して持って  
来るとは、大分怪な事だ

- それはおかしな事だと思います。大平外相は先生が  
五項目をかかげ、それを中国が支持したことです。  
他党は話し合いで決めました。公明党は主導的  
に五項目をかかげました。敬服しています。帰国に  
あつた報告会でも、五項目が主導的であつた。誰  
も文句が云えませんでした。公明党が政権を  
とつたら、こちらは何も云わなくても済むでしょう。  
激励電報だけ打つてはいけません。いや、それは  
今日の事ではありません。現在、自民党が政権を  
とっています。しかし、大平外相が言う通り、この  
では、田中首相の云つたこと（野党と田中談話の別）  
は一理あります。

この総裁選挙の争つたときに、福田で止めて自分の  
総理になつたら、北京に行くと言つていま  
70年代の福田は、60年代の佐藤ではないと言つ  
ていました。従つて田中首相の云ふことに福田は  
反対する訳にはいかない。二人の大臣も入閣し  
ました。ここに田中首相の才能が生きています。入閣し  
なくても就任式をやり、13日迄に解決出来ると云つた  
12日に解決しました。大平外相の首相の田中  
で初めて生れ、大平を破りました。これは田中の利  
しい事です。公明党は大衆運動の中に  
市民運動をやつていゝわけですから、二つで首を  
叩いてもプラスですね。経済的に困難を突破

01-14 EDC

お厚、苦にみに堪えねばならないでしょう。  
 今迄の経済発展の早過ぎたものでしょう。

△ 田中首相の歩んで来た人生が大きく影響しています。  
 田中首相は佐野政治に決別したいという決意を  
 もっています。今迄の保守黨の政治と決別したい  
 という決意もっています。この決意の実行が  
 どうかどうかは、このことなのです。

○ 先ず第一に困難を突破する決意が大切です。  
 第二に 党内の反対をとり去らなくてはなりません。  
 第三に 野黨と人民の支持の得なくてはなりません。  
 野黨の立場は 田中首相の正に反対の  
 支持は、間違へば反対するといふことですか。

△ 野黨は田中問題では協力するの当然です。

○ 共産黨も表面では反対をしないが裏から破  
 かいするでしょう。云々難しいけれども内心では  
 グロムコフの早く日本に来てもらいたいという考えで  
 しょう。この間 田中首相と大平外相は8月31日  
 9月1日にハワイでニクソンと会って来たことも  
 発表しました。竹入先生はこのことは重要な  
 一環であるといふことを私は評価しています。

私たちは、文章の中に題目の必要であるといふ  
 表現をしていますか。い方はちかいますか。  
 意味は同じです。それは公明黨全席の問題



と、日本人の要求です。日中問題は排他的な  
ものではありません。これは、ニクソンにも キッシンジャー  
にも云いました。これは、日米間に水を差すものでは  
ありません。キッシンジャーにも 云ったことがあります。  
キッシンジャーは、東京から北京へ来ました。キッシン  
ジャーは、田中通産大臣に最後に会いました。  
最初に 佐藤、次に福田、そして野田の皆さん。  
そして田中さん。これは面白いことです。最後の  
田中さんだったことについて、良い安配でした。  
キッシンジャーは、日中友好に反対するかと云いたが  
反対しないと答えました。そうゆうところに手を  
つけたことは、田中首相のいい段取りです。  
竹入委員長を中国へ寄したあとでハワイへ  
行くことはいいことだと思います。

ざくばらんに問題点をは、まりさせたと思います。

△ 私、田中首相、大平外相の話に、ざくばらんに  
云いました。

○ それはいい方法だと思います。正しい方法だと思  
います。

△ 私、周総理に、おけいさや、安配は、しません。

○ この事は、先生を信頼しています。公明堂の立場



と、田中首相の話とすゝ立場とを区別しています。公の意は、口内問題もあり、自民黨と主戦もちがいます。しかし、今の段階では、公の意の意見を押しつけることは出来ないので、竹入先生の判断に依り、田中首相、大平外相の意見を云って下すことは有かたいと思っています。

△ 今はそれしかありません

○ 口交回復後も、口交かや否かはなるまいこともあつたが、政府向のみならず、民間のことでもあります。先ず第一に、田中首相、大平外相の云っているように、中日両口内に口交を樹立、大使の交換、相互に承認し合う。第一に、速く（やく）早い方がよい。私達としては、23年待たう、差いつぬきないか。田中首相としては、早い方がよいと思います。

△ 好む慶多にということがあります。口交を回復し、外交関係を樹立することは、早ければ早い方がよいと思います。

○ それは総選挙に対しても、有利でしょう。今回の任期は来年まであつたでしょう。野党は来年まで続けたいといふので、

△ 任期は来年一杯まであります。井内内閣は

生じた場合、解散して国民に信を問うのは常識  
です。田中首相はそれより日中の大争だと  
云っています。日中問題の取りかた、それ  
分ります。

- 中国人民の願望はあつてあります。  
大平外相の予想では、蒋介石の大使館をひき  
げようとしていると見えています。竹入義生は  
その意見をどう思っていますか。頼りになりますか。

△ 頼りになります。

- 台湾のその持主ニュースに入っているの、  
見なければ判りません。互射す、人達の間で  
どう。親善団体を送たり、台湾の代表団の  
来たりしていますね。岸力やの14ヶ条の声明を  
出していますね。田中首相は自民党田中正常代  
協議会で10ヶ条を出した。岸は14ヶ条を出  
した。岸力やは二つの中国を作ろうとして  
います。表向きには互射出来ませんね。  
大事なことは出来ないか。おまわすでしょうね。  
岸はそういう人です。

- △ 岸はそういう人です。吉田のあとを岸が受け  
ついで来ましたが、日中外交回復の本事は  
岸はダメになつてしまふ。

○ 佐々より岸の方へ陰険ですか。

△ そのように思っています。

○ 佐々は最後にすてゼリふを残したね。  
安部も岸ですね。日本の台湾への配慮は  
経済と居留民ですか。あの統計ですと  
日本の婦人が中口人と結婚したのは64人と  
言われています。12交回復したう里帰りの妻の  
でしょう。12交回復したといと再び帰るという  
心配があります。そうした方は、解放戦争に  
力をつくした方々です。医者とか看護婦とか  
中口人と結婚し。私たちは彼等に感謝して  
います。中口に子供が居る。日本に両親がいて  
その双方に希望を抱いてのうでしょう。

戦犯は解決済みです。全部帰らせました。  
高崎先生、松村先生、遠藤三市先生の努力  
でした。台湾への経済関係は日本の投資  
でしょう。

△ 戦後の投資と政府借款と年向8億ドルの  
貿易関係です。

○ 日本は輸入より輸出が多く、これは日本にとって  
大きな問題になっていますね。中口は何も云  
っていませんが、日中貿易も日本の輸出が  
多くなっています。

△ これは すいません

- いえ、日本の技術が高い。習う必要があります。これが 友好商社より大手商社との関係と結ぶことになります。日本の輸入を少なくすることではなく、今迄より、ふ之々と思います。古井先生に対して 公に云わないか、その点は問題ありません。安心して下さいと云っておきました。戦后と戦前はちがいます。戦前は口交はなつか、友好的往来はとだえませんでした。それはアメリカとちがうところでは。岸もこれを とだえさせようとは出来ませんでした。人民の友好です。

△ 感謝しています。

- お互いの問題です。貿易と友好の結いつきが深いのです。日本と中国は 戦后 27年ですが 秦の時代から 2,000年もの友好があり、この27年は一瞬のようなものです。田中首相は、日中両口に 平和五原則に基づいて 口交を結ぼうとしています。全く賛成です。平和条約も可能ですが、平和友好条約にしたいと思います。この中に 平和五原則を入れれば良いと思います。武力ではなく話し合いによって 解決する、というふうにすれば良いと思います。アメリカもソ連も、それは反対出来ません。

前途に光明は満ちております。日中両国が互に  
平和 友好になれば 極度に渦巻く世界的問題  
の解決になります

田中首相は日中口交正常化の機は熟したと  
断定的に云い、自民党日中協ではそれを基  
本原則としてゐる。その精神に私たちも同感  
です。(二いで 王曉云氏が)

「昨日の自民党日中協で 初步的な一致を見た  
二つの段階取りがあります。その一つは 共同声明で  
は交回復。その後、平和条約 締結です」

○ これですと、基本的に私たちの意見と一致して  
います。私は田中首相、大平外相が北京に  
来られ、共同宣言を出し、(共同声明でも良い)  
口交を樹立することは、鳩山エんとソ連もそ  
のやり方でした。平和 友好条約を結い  
たいと思います。そうすると全世帯が安心  
する。そうした方が良くと思います。  
北京に来て そうした共同宣言が 無いと無意  
味になります。

三つの問題があります。田中首相大平外相  
に 安心してもらうしたいと思います。

① 日米安保条約には 及びません

日中口交回復の出来たら 中口への安保の効力  
は無くなります

② 1969年の佐田ニクソン共同声明にも及びません  
共同宣言の発表を以て 平和友好条約で

いけます。あとは法律家にかねせれば良い  
政治的信義が大事です。

③ 日蒋条約の問題

田中首相は就任してから夜々中口の政府の主張  
張っている。復交三原則を理解していると云って  
いますか。これは尊重するという意味でしょうか。

△ そうです。

○ そうゆい、方で直接ふたくなつたといふ考え方  
をしているのですね。

△ 共同声明の出来、外交関係の樹立したその瞬  
間の、日台条約は無効になります。

○ そこで異議の問題の一つあります。  
田中首相は中華人民共和国は正統と云っているか、  
これは合法という意味になりますか。

△ そうです。

○ 中口では合法の反対は非法、不法という事です。  
蒋政府は不法です。昨年は口直に復帰し  
ました。政府は追いついてきた中華人民  
共和国は、法的にも合法になったのです。  
田中内閣の法律家たちは、何の正統とい  
ふ言葉に意味をもたせているのではないで(は)いか



△ ないと思います。田中首相は大平外相、三木  
さんと、協定しました。その中には復交三原則  
は含まれています。黙示として含まれています。  
田中首相の決意としてです。しかし現状では  
明らかに云えない平措が国内にあるという事  
です。唯こで改めて了解を得たいことは  
日台条約は本来不法不当という立場をとれ  
ば日本国内に混乱をおこします。この案の  
再理解を頂きたい。

○ この正統という事は申口では偏安に対する  
言葉です。(こで申口の古代からの歴史に  
於ける正統偏安の言葉の意味が歴史的に求  
べられた)

名詞の問題ですから解決されます。  
合法という一方向に頂けますか。

△ そのように改めよう話したいと思います。  
ご面倒をかけます。

○ 先生が云われたことはお帰りになされた  
検討してご返事をいたします。  
この第三の問題は検討しておきます。一、二は  
簡単です。

もう一つの問題は台湾や申口の領土の  
一部ということ。中米共同声明でもそれを認  
めておられますか。日本にどんな問題がありますか。



14

△ 問題はないと思います

- これは蒋介石も含め 中口は一つだと認めています。台湾は中口の一つの省だと認めています。台湾を省と呼んでいますよ。台湾の省長 コウギョクジュという人です。

△ 中米共同声明に於ける台湾の領土の表現についてゆるやかなものと云えるか、いかに厳格なものであるか。

- そうです。日本の立場とは違うでしょう。アメリカは口交正常化を延ばしたいという気持ちがあります。選挙の問題があります。マカバソは直ちに中口を承認すると云っています。彼等の論争に介入したくありません。客観的に中口は一つであり、台湾は中口の一つの省だといふことは、中口人同志には論争はありません。

△ 確認をいただきたい。田中首相の訪中の共同声明の場合

- ① 中華人民共和国は唯一合法政府。
- ② 台湾は中口の領土の一部であることを明確にする必要がありますか。

- その実を考えての最中ですが、もう少し考へておきたい。田中首相は中口の主張の

15

三原則を理解していると言えども含意を持たせたい  
方をしている。今日は意見の交換です。  
毛主席に報告し、党内で討議します。  
毛主席は賠償請求権を放棄するといっています。  
賠償を求めれば日本人民に負担がかかります。  
そのことは中国人民の身をもって知っています。  
清の時代には2億5千万両、日本に賠償  
しました。清朝はこれを利用して税を重く  
しました。これを全部払ったかどうかわかりません。  
8口連軍の賠償は4億〜5億両でした。  
4億ドル位で、今では大した額ではありませんが  
負担を人民にかけることは良くない。  
賠償の請求権を放棄するというのが  
国共両方に書いても良いと思います。

△、お礼の言葉もあります。

○ 当然のことです。20数年來の両国人民の  
友好によって、日交の実現するのですから。  
私たちはこれから次の交代を考えなくては  
なりません。

私たちは決してむづかしいことは云いません。  
早く日交を樹立する為、早く来られた方が  
良いと思います。

ヤリ入委員長は9月中旬の良いいつこと  
か、私達は歓迎します。  
日米会談のあとになりますから、これは肉題

ありません。出来たら 9月が良いと思います  
若し大平外相から口連に出来れば下旬か  
よさいいですか。それか出来れば中旬と  
いうことになりますか。その時は時間が短く  
なります。4~5日になりますか。

△ 9月下旬では12慶節への影響がありますか

○ 支障はございません。

○ 飛行機直行は良い考え方だと思います。  
今夜、日航と全日空から舞劇団を運んで  
くれます。中日から飛行士を派遣し試験  
飛行をさせたいと思います。安全のために、  
日本の領空を飛ばす案内します。  
北京から山東省の上空を飛んで東京に  
帰れば良いと思います。

△ 今夜の日航の機長は田中首相の準備  
をしなければなりませんか

○ 田中首相の試験飛行も可能です

△ 田中首相の機は又東京から案内してい  
てほしい。

○ 試験飛行をして平和友好的を喜

17

あげの前に実行しましょう 航空 漁業協定を  
 作りましょう 通商と航海は やいこい  
 實際は今でも やっているのです 日本船が  
 中口の港に着いています 女界の中で中口  
 には 日本の方が一番おいでになっています  
 田中首相、大平外相が云っているように 日中  
 友好の願望は もどることから生まれます

△ 戦争終結宣言を どのようにお考えでしょうか

○ 先生がお帰りに なさ検討します  
 草案を作っておくことも必要でしょう  
 日中協の活の二スルが 確実であれば  
 準備をしているのではないのでしょうか  
 竹入先生が帰って 内閣が決定すれば 草案  
 準備に 信頼 出来る人を案にする 否かは  
 田中首相にまかせます

△ 田中首相の決断が早いとその準備が  
 に 直接来ることもあり得るかも知れません  
 日本はマスコミ公署で 草案の秘密に出来  
 かどうか判りません 官庁も秘密を守ら  
 ない場合があります

○ その実は キンゼンガーも云っていました  
 キンゼンガーは ホワイトハウスに サグループ  
 を 作っています

18

△ 松の生笑までに中国の友好意を示  
ていただければ 田中首相、大平外相が直接  
来、方から口内もうまくいくと思います

○ その考えは正しいと思います。先生は中に  
いののです。アメリカが中国との間に秘  
密でやったのは、アメリカに困難があったか  
です。日本に頭ごじのお詫言に行、たでい

△ ニクソンの訪中を批難するのは的外れです

○ 佐藤は自信が強かったが最後に自信が  
無くな、たようです。田中首相の対中政策  
が明らかになっていきます。アメリカの果を  
い、は。ことはないのでしょ。

△ 二人の決意としてはアメリカの考之方をま  
いて決断することはないと思います。  
若にあって、アメリカの要求をはねつける  
と思います。

○ 記者会見から独立性がうかびます。  
記者に云、た。本物でしょう。  
日本の経済の、こ、に発展したことから  
独立の大事です。

台湾に対しては台湾を解放します  
出来、た平和的に努力したいと思、た。

19

アメリカも知っています。竹入先生から  
田中首相、大平外相に伝えて下さい。  
蒋介石の攻めてくれば別ですが、  
機が熟すれば自然に解決します。安保  
日米共同声明に影響はしません。中口に  
関する部分は効力を失ってしまいます。  
日中間も口交回復し、友好条約を締結し  
て、アジアの平和のみならず、在米の平和  
に貢献しましょう。

中米共同声明にあつたように中口は覇権を  
求めません。このことは中口と日本が実行  
すると思います。二つの大口は覇権を争うそ  
わがないとは云い切れません。これを私たちの  
実行し、在米にいい影響を与えましょう。

△ 周總理の云うように、中口は超大口にならな  
いのを信じます。中口の平和国家であること  
を信じます。

○ 何回も中口に来て、間違つたことは批判して  
下さい。次の五代のことを防止することの  
必要であり、友人の助けも必要です。  
永遠に助け合ひましょう。  
首方々も、もう一度戦争の起つという可  
日中にも、在米にも不利だと思つて  
しょう。

△ 私は今回の訪中について 公明党として本来の立場を離れて 訪中しました。

○ 今は公明党の党の立場ではなく友人として来ているのです。 公明党を支持している田中首相の伝言をもって来ているのです。 矛盾していないと思います。 内政については 公明党が田中首相と一緒にやる事はないでしょう。

私たちのこの世代で口交を回復させ 友好を回復させておけば 次の世代に ~~友好だ~~ 有効 と思います。

アメリカも頭こしでやったのだから 日本が先に進むことは 非難 生まれるのではないでしょう。

△ 大口主義は出て来ると 생각합니다。

○ 矛盾はそこにあります。

△ これからの政治の面で 野党が自民党に反対して来た時代を終らせなくてはならない。 反対の意の反対です。 これからは意見を持たなくてはならないと思う。 そして野党間の結束を固めなければなりません。 種々の問題が大きな大衆運動にならなければなりません。 田中内閣が転換したのだから 野党も変えなくてはなりません。



2/

- 正しければ それを支持し 間違えば それを批判す。それによって時代を前進させる必要のありますね。経済の発展の問題の大きな課題ですね。

△ 最大の課題です

- 世界的に問題です 欧州もそうです。

△ 日本は産業構造の抜本的な変革が必要と求めています。周总理は昨年、アジアの国々も日本の食料供給口に立ちはたさないと云いました。

- その通りです。購買力をつけなくてはなりません。タマゴをとるためには、ニワトリを沢山飼わなくてはなりません。

△ 又公害問題も国民の協力しなければなりません。

- 国民からある程度のお金を求め、企業家も自分の責任に於いてお金を出し、人民大衆はそれを監視する立場にならなければいけません。この二、三年 公害 公害と日本の利左衛門の人の言うので 中口も注意しています。再軍縮はいけません。では今日はこの辺で終わりますようか。

[illegible]



















1972

July 27th 16:00~19:00

Takeiri [Yoshikatsu]-Zhou [Enlai] Dialogue (First Round)

Zhou

Takeiri

Zhou: Although relations are still shallow, I am pleased that the mutual wishes of both the Chinese and Japanese peoples are being represented. Because you have arrived shouldering such an important duty, I felt that I must see you as soon as possible. I see that Prime Minister Tanaka [Kakuei] has to some degree appreciated the opposition party and the All-Party Parliamentary Group's promotion of friendly relations between China and Japan. I surmise that he understands the amount of effort that you gentlemen have put in. When Prime Minister Tanaka spoke at the Liberal Democratic Party's Japan-China Society, it seemed that he spoke while paying attention to many different factors. In your opinion, Mr. Takeiri, can this bring a new feeling to Japanese politics?

Takeiri: I believe it is correct that Prime Minister Tanaka appreciates the long-term efforts of Mr. Matsumura [Kenzo] and Mr. Furui [Yoshimi] and others for the promotion of Japanese-Chinese friendship. I too am honored to be one stone in the foundation for a new house.

Zhou: I believe that Prime Minister Tanaka surely understands that the realization of relations between Japan and China is the desire of all citizens. Foreign Minister Ohira [Masayoshi] has also recognized the Japanese people's attitudes.

This is something that the esteemed members of the majority and minority party fully understand. The Komeito [Komei Party] has put in great efforts. Mr. Takeiri's stabbing at the hands of right-wing elements is proof of this. I express my condolences to Mr. Takeiri. Judging from my own experiences, I differentiate between those who truly wish to do good and those who do not. I highly praise Prime Minister Tanaka for having emphasized peace despite diplomatic agitation since the establishment of his new cabinet. I welcomed Prime Minister Tanaka's address during the reception held on the 9th.

Takeiri: I am thankful for Premier Zhou's kind courtesy.

Zhou: It has been 23 years since the establishment of [the People's Republic of] China [in 1949]; in similar times China has responded on two occasions.

The first was during the Hatoyama [Ichiro] Government [1954-1956], when Mr. Takasaki [Tatsunosuke] was sent to the Bandung Conference. I was able to directly relate to Mr. Takasaki how I welcomed such actions. Because the Hatoyama Government was putting its effort into Japan-Soviet issues, however, there was not too much effort placed in Japan-China affairs. Prime Minister Tanaka, on the other hand, is putting effort into Japan-China issues and believes that reestablishing diplomatic relations between Japan and China is important. We too have to reciprocate. I truly believe in Prime Minister Tanaka's thoughts on the reestablishment of diplomatic relations between Japan and China...

I requested for Mr. Ninomiya [Bunzo] to relay my thoughts to Mr. Tanaka. I believe the Chairman is cognizant of this.

Takeiri: Ninomiya returned to Japan on the 23rd. The Minister of International Trade and Industry [MITI] Tanaka [Kakuei], Ninomiya, and myself met on the 24th. The message was relayed without fail.

Zhou: Thank you very much, Chairman and Vice-Chairman for your cooperation.

Takeiri: I believed that Prime Minister Tanaka's courage has been reinvigorated by Ninomiya's delivery of Premier Zhou's message.

Zhou: I believe that sincerity is important and necessary.

Takeiri: I believe Premier Zhou's message was the primary factor for his final decision.

Zhou: It is 27 years since the war [between China and Japan], and 23 years since the establishment of New China. I believe that our two countries cannot continue the circumstances that have lasted until now. I have looked through your discussion with Liao Chengzhi. Is there anything you would like to add today?

Takeiri: We have nothing to add to the discussion we held with Mr. Liao. The Komeito has strongly adhered to the Three Principles for the Restoration of Diplomatic Relations between Japan and China.

We are quite conflicted about bringing such a discussion to Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira.

Zhou: We believe this will not be a problem. The important thing is that you have raised the five items and that China has supported this. The other parties have decided after discussion. The Komeito has taken a leadership position in raising the five issues. We greatly admire this. Even during the reporters meeting after returning home, no one could raise an issue about the leadership of the five issues. If the Komeito were to form the government, we would not have to say anything. We would only have to send a telegram of congratulations. However, that is not the case now. In reality, the Liberal Democratic Party is in power. However, we see great changes to come. There is some truth to what Prime Minister Tanaka has said about the opposition party and the Japan-China Friendship Parliamentarians' Union.

During the presidential elections, even Fukuda [Takeo] has said that if he were to become Prime Minister, he would go to Beijing.

It is said that Fukuda of the 1970s is not Sato [Eisaku] of the 1960s. Therefore, Fukuda will be unable to oppose what Prime Minister Tanaka has said. The two ministers have also joined the cabinet. Here in lies Prime Minister Tanaka's skills. He said that even if they do not join the cabinet, he will resolve the matter by the 13th and hold the inauguration ceremony. The issue was resolved on the 12th. He disrupted history by becoming the first Japanese prime minister to not have graduated from college. This is the start of a new Japan. I believe that the Komeito's conducting of a democratic movement within the popular movement will be beneficial. This will entail having to face economic difficulties head-on and enduring difficulties. Economic development up to now has been too fast.

Takeiri: The life that Prime Minister Tanaka has lived is a great influence upon this. Prime Minister Tanaka has decided to differentiate himself from the Sato Government. He has decided to differentiate himself from the politics of the conservative party that had prevailed until now.

Zhou: Of foremost importance is the decision to face hardship head-on.

Second, opposition from within the party must be dealt with. Third, the support of the opposition party and citizens must be secured. Is the position of the opposition party that they will support Prime Minister Tanaka if he is correct and oppose him if he is incorrect?

Takeiri: It is a matter of fact that the opposition party will cooperate on Japan-China issues.

Zhou: The [Japanese] Communist Party cannot oppose this outwardly, so they will likely do so from behind the scenes. It is difficult for them to say, but they likely are hoping that [Soviet Foreign Minister Andrei] Gromyko comes to Japan. In this regard, Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira have announced that they will go to Hawaii to meet [US President Richard] Nixon on the 31st of August and 1st of September. I appreciate that Mr. Takeiri has called this an important first step.

We have expressed that it is necessary to include titles within the text. It is a different way of putting things but the meaning is the same. This is an issue for the whole of the Komeito and the wish of the Japanese people. Japan-China issues are not an exclusive thing. We have expressed the same to Nixon and [Henry] Kissinger. This will not dilute Japan-US relations. We have heard from Kissinger as well. Kissinger came to Beijing from Tokyo. Kissinger had met with the Minister for International Trade and Industry, Tanaka. First with Sato, then Fukuda, then with everyone from the opposition party, and finally with Mr. Tanaka. This is very interesting. That the meeting with Mr. Tanaka was the final meeting was reassuring. When asked if he would oppose friendly relations between Japan and China, Kissinger answered that he would not. Prime Minister Tanaka's involvement in the matter was fine example good planning on his part.

I believe it is a good thing that he is going to Hawaii after sending Chairman Takeiri to China.

I hope to frankly clarify the issues.

Takeiri: I too have spoken frankly about Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira's discussion.

Zhou: I believe that is a good method. I believe that is the correct method.

Takeiri: I will not act tactically with you either.

Zhou: I have faith in Mr. Takeiri in this regard. I differentiate between the Komeito's position and the position from which Prime Minister Tanaka speaks. The Komeito has domestic concerns, and has a different opinion from that of the Liberal Democratic Party. However, at this stage, the Komeito will be unable to press their views. I am thankful for Mr. Takeiri's decision to share with us Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira's thoughts.

Takeiri: That is the only thing that I can do now.

Zhou: There are things that the nation must do even after relations are reestablished, however, it is not limited to relations between states, but includes relations between citizens. As Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira have said, we must first establish diplomatic relations between China and Japan, exchange ambassadors, and

mutually recognize each other.

Second, it is better to do so earlier than later. Having waited for three years, we do not mind, but it may be better for Prime Minister Tanaka if this is done earlier.

Takeiri: Light usually follows darkness. It is the sooner the better to reestablish diplomatic relations and establish bilateral relations.

Zhou: It is likely beneficial for the general elections as well. The current term is until next year. Will the opposition party not want for the term to last until next year?

Takeiri: The term lasts until the end of next year. If a new cabinet is established, it is a matter of fact to dissolve Parliament and make an appeal of confidence to the citizens. However, Prime Minister Tanaka has expressed that Japan-China relations is of more importance. Arrangements made for Japan-China issues is indicative of this.

Zhou: I have previously expressed the wishes of the Chinese people.

According to Foreign Minister Ohira's predictions, Jiang Jieshi [Chiang Kai-shek] seems to be preparing to vacate the embassy [of Taiwan in Japan]. What does Mr. Takeiri think about this? Is this a reliable prediction?

Takeiri: Yes, this is reliable.

Zhou: There is similar news coming from Taiwan, however, I cannot make a judgment until I see it. There will likely be people opposed to this. Japan seems to be sending friendship delegations to and receiving delegations from Taiwan. Kishi [Nobusuke] and Kaya [Okinori] had made a fourteen point declaration. After Prime Minister Tanaka made ten points at the Liberal Democratic Party Japan-China Normalization Meeting, Kishi made fourteen points. Kishi and Kaya are trying to create two Chinas. It seems that outward opposition cannot be made.

They cannot do anything substantial, but they are sure to try to disturb things. Kishi is such a person.

Takeiri: Yes, Kishi is such a person. Kishi has succeeded Yoshida [Shigeru], but if reestablishment of Japan-China relations succeeds, Kishi will be ruined.

Zhou: Kishi is more treacherous than Sato.

Takeiri: I believe so.

Zhou: Sato had left a parting threat. The [Japan-US] Security Treaty was Kishi's doing as well. Does Japan take Taiwan into consideration because of the economy, or is it because of the Japanese citizens residing in Taiwan? According to previous statistics, there are 6,000 Japanese wives married to Chinese men [in Mainland China]. If relations were normalized, they would be able to visit their hometowns. If relations are not normalized, there is the concern that they will not be able to return. Those people are the people who gave their all in the war of liberation. We are grateful for those people—the doctors and nurses who married Chinese people. They have children in China and parents in Japan. They are embracing the hopes of both of these sides.

War criminals have been accounted for. They have all been made to return. This was



due to the efforts of Mr. Takasaki, Mr. Matsumura, and Endo Saburo. Economic relations with Taiwan are Japanese investments...

Takeiri: Postwar investments and government loans make up a yearly \$800 million trade relationship.

Zhou: Is it not a major problem for Japan that Japan exports more than it imports? China has not said anything, but Japanese exports are increasing for Japan-China trade as well.

Takeiri: Yes, I am sorry for this.

Zhou: On the contrary, Japanese technology is advanced; there is a need to learn from Japan. From henceforth, major trading firms will make ties rather than friendship trading companies. Rather than decreasing Japan's exports, this will likely increase exports, as has been the trend up to now.

I will not publicly say so to Mr. Yoshii, but there is no problem in this regard. I told him to not worry. The postwar and prewar are different eras. In the postwar, there were no diplomatic relations, but friendly correspondences did not stop. This is different from the United States. Kishi was unable to sever this tie either. This is friendship between peoples.

Takeiri: I am thankful for this.

Zhou: This is an issue between our countries. The ties of trade and friendship are deep. It has been 27 years since the war, but relations between Japan and China span 2,000 years back to Qin Dynasty. The previous 27 years is only but a moment.

Prime Minister Tanaka is trying to create diplomatic ties between Japan and China based on the Five Principles of Peaceful Coexistence. I am absolutely in favor of this. A peace treaty is a possibility, but I would like to make this a treaty of peace and friendship. I believe the Five Principles of Peaceful Coexistence should be included in this. We ought to resolve things through dialogue rather than through the use of force. Neither the Americans nor Soviets can oppose this.

The future overflows with brightness. If peace and friendship are established between Japan and China, this would bring about a conclusion to the problems enveloping the Far East.

Prime Minister Tanaka has concluded that the timing is right to normalize Japan-China relations, and so the Liberal Democratic Party Japan-China Society has made this the basic principle. We agree with this way of thinking. (At this point Wang Xiaoyun commented...)

"Two things must be arranged with regard to the two basic agreements reached at yesterday's Liberal Democratic Party Japan-China Society. One of these is the joint declaration on establishment of diplomatic relations, and after this, a peace treaty."

Zhou: This is basically in line with our opinion. I believe that if Prime Minister Tanaka or Foreign Minister Ohira came to Beijing and made a joint declaration (a joint statement would be fine too) to establish diplomatic relations, this would be the same method as Mr. Hatoyama did with the Soviet Union [in 1955]. I want to conclude a peace and friendship treaty. I believe that doing so would bring a peace of mind to the world, and I believe this is good.

If they come to Beijing and if there is no joint declaration, the visit would have no meaning.

There are three problems. I hope that Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira would have peace of mind.

(1) It will not touch on the Japan-US Security Treaty

If diplomatic relations between Japan and China are restored, it will take away the effect [of the Japan-US Security Treaty] on the security of China.

(2) It will not touch on the joint statement between Sato and Nixon [of 1969].

Announcing a joint declaration could attain a peace and friendship treaty. The rest could be left to lawmakers. Political fidelity is important.

(3) Regarding the Japan-Jiang Treaty

Prime Minister Tanaka has expressed time after time that he recognizes the Three Principles on the Restoration of Sino-Japanese Diplomatic Relations. Is this to mean that he holds the principles in high esteem?

Takeiri: Yes, this is correct.

Zhou: While you say that, you do not want to directly address this issue. Is this correct?

Takeiri: As soon as a joint statement is made and diplomatic relations are established the Japan-Taiwan Treaty will be nullified.

Zhou: I have one question in this regard. Prime Minister Tanaka has said that the People's Republic of China is legitimate, but is this to denote a legal meaning?

Takeiri: Yes, this is correct.

Zhou: In China the opposite of legal is un-legal, which is to mean illegal. The Jiang government is illegal. We were reinstated to the UN last year [1971]. The Nationalist Government was kicked out. The People's Republic of China has become legally recognized internationally as well. Are the Tanaka cabinet's lawyers trying to convey something by using the word 'legitimate'?

Takeiri: I do not believe so. Prime Minister Tanaka has made an agreement with Foreign Minister Ohira and Mr. Miki [Takeo]. The Three Principles for the Restoration of Diplomatic Relations are included in this agreement. It is implied. This is as Prime Minister Tanaka's determination. However, at the moment, there are domestic circumstances that does not allow for this to be made clear. Something we hope for you to understand is that, if Japan takes the position that the Japan-Taiwan Treaty is no longer legally valid, then there would be confusion domestically. We hope to gain your understanding on this matter.

Zhou: In China, 'legitimate' is a word that deals with pian'an [translator's note—to be content to retain sovereignty over a part of the country] (He explained the ancient, historical meaning of legitimate in relation to the historical word pian'an).

This is an issue regarding a noun, so this can be solved.

Would it be possible for the word 'legal' to be used instead?

Takeiri: I would like to convey to them to make such a change. I am sorry for the inconvenience.

Zhou: I would like to consider what you have said and give an answer before you go home.

I will consider that third issue. The first and second issues are easily solved.

Additionally, the China-US Joint Declaration acknowledges that Taiwan is a territory of China. What sort of issue is this for Japan?

Takeiri: I do not believe that there is an issue.

Zhou: Jiang Jieshi also recognizes that China is one and that Taiwan is one of the provinces of China. He calls Taiwan a province.

The governor of Taiwan. A man named Wu Kuo-chen [K.C. Wu].

Takeiri: Can it be said that the expression used in the China-US Joint Declaration regarding Taiwanese territory is loose?

Zhou: Yes. This is different from the standpoint of Japan. America means to prolong the normalization of diplomatic relations. There is the issue with elections. [George] McGovern is saying that he will immediately recognize China, but we do not want to intervene in their controversy. There is no controversy among Chinese peoples that objectively speaking, China is one and Taiwan is a province of China.

Takeiri: I would like to confirm. Is it necessary for Prime Minister Tanaka to clarify in his joint declaration during his China trip that (1) the People's Republic of China is the sole legal government and (2) Taiwan is a territory of China?

Zhou: We are currently considering this point. Please give us a little more time to think. Prime Minister Tanaka has implied that he recognizes the three principles espoused by China. Today is for exchanging opinions.

We will report to Chairman Mao [Zedong], and discuss the issue within the [Chinese Communist] Party.

Chairman Mao has said that he will renounce the right to seek reparations. If we seek reparations, this would place a burden on the Japanese people. This is something that the Chinese people fully understand. During the Qing Dynasty, China paid 250 million taels in reparations to Japan. The Qing Government placed heavy taxes [on the people] as a result. I do not know if they paid the full amount. Somewhere between 400-500 million taels were paid to the Eight-Nation Alliance [Austria-Hungary, France, Germany, Italy, Japan, Russia, the United Kingdom and the United States]. If roughly converting to 400 million dollars, this is not a large amount. However, it is not right to place such a burden on the people.

I think it would be alright to include in the joint declaration China's renunciation of its

right to seek reparations.

Takeiri: We are very grateful.

Zhou: It is a matter of course. Diplomatic relations will be restored after twenty some years of friendly relations. We must think about the next generation.

We will not make difficult demands. I believe you should to return to Japan quickly so that diplomatic relations can be restored sooner.

Chairman Takeiri has said that the middle of September would be good. We welcome this very much.

This would come after Japan-US talks, but this is not a problem. If possible, I believe that September would be good. If Foreign Minister Ohira were not going to the UN, then the end of the month would be good. However, if this is not possible then it would be the middle of the month, and time would be quite short. Between four to five days.

Takeiri: If it is the end of September, would it have an effect on your National Day?

Zhou: It is not a problem.

Takeiri: I think a direct flight would be a good idea. JAL and ANA will carry a dance troupe as well. We would like to invite pilots from China to conduct a test flight, as well. For the purpose of safety, we will guide them once they leave Japanese airspace.

I believe it would be good if they left Beijing and flew to Tokyo through Shandong Province.

Takeiri: The next JAL pilot has to prepare for Prime Minister Tanaka.

Zhou: A flight test for Prime Minister Tanaka is also possible.

Takeiri: We would like to seek your guidance on the flight from Tokyo for Prime Minister Tanaka as well.

Zhou: Let us conduct the test flight, and do so before the Peace and Friendship Treaty is drafted. Let us create an aviation and fisheries treaty. Commercial and navigation treaties are difficult, but in reality such activities are already being conducted. There are Japanese ships in Chinese harbors. Among the nations in the world, Japan comes to China the most. As Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira have said, it is impossible to roll-back the desire for friendship between Japan and China.

Takeiri: What do you think about a declaration to end hostilities?

Zhou: I would like to consider the topic until you go back to Japan.

It is necessary to make a draft. If news about the Japan-China Society is true, would it not be the case that preparations are already being made?

If the cabinet decides to do so after you return to Japan, then I will entrust Prime

Minister Tanaka to decide whether or not to send someone who can be trusted with preparing a draft.

Takeiri: If Prime Minister Tanaka's decision is quickly made, there could be the possibility of him coming without such preparations. Because of the nuisance of the mass media, it is unsure whether such a draft could be made in secrecy. There are cases when even bureaucrats do not keep secrets.

Zhou: Kissinger also commented on that point. Kissinger has made a small group within the White House.

Takeiri: If we are able to receive China's favorable agreement, then it may work better domestically for Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira to come directly.

Zhou: I think that idea is correct. You are in China. The reason America conducted relations with China in secret is because the US had certain difficulties as well. They went over Japan's head.

Takeiri: It is off the mark to criticize Nixon's China visit.

Zhou: Sato is confident, but his confidence seems to be on the wane of late. Prime Minister Tanaka's China policy is out in the open, but will America stand in the way in some manner?

Takeiri: I believe that the two will not base their final decision on what the US believes. Even if the US has some demands, I believe those demands will be easily put to rest.

Zhou: I can feel a sense of independence from the press conference as well. It must be true if he is able to tell the press. Independence is important given that the Japanese economy has grown to this extent.

With regard to the Taiwan issue, we will release Taiwan. We hope to endeavor as peacefully as possible.

America knows this as well, but please tell this to Prime Minister Tanaka and Foreign Minister Ohira. It would be a whole other case if Jiang Jieshi attacks, but if the opportunity is right, this issue will solve itself. It will not affect security or the Japan-US Joint Declaration. The point regarding China would lose its effect.

Let Japan and China also reestablish diplomatic relations, and through a friendship treaty, let us contribute not only to peace in Asia, but world peace.

As the China-US Joint Declaration makes clear, China does not seek hegemony. I believe China and Japan will follow through on this. It cannot be said unequivocally that two great powers would not vie for hegemony. Let us realize this goal and effect the world positively.

Takeiri: As you say, I trust that China will not become a superpower. I trust that China is a peaceful nation.

Zhou: Please come to China many times, and criticize [us] where we make mistakes. It is necessary to prevent mistakes in the next generation, and a helping hand from a

friend is also necessary.

Let us help each other for all eternity.

I believe that you also think that another war between our two nations would be mutually disadvantageous for us, as well as to the world.

Takeiri: I have come to China separately from my role as a member of the Komeito.

Zhou: You have come not as a member of the Komeito, but as a friend. You have come bearing a message from Prime Minister Tanaka, who is a supporter of the Komeito. I see no contradiction. Regarding domestic affairs, Prime Minister Tanaka and the Komeito are unlikely to come together.

I believe it will be advantageous to the next generation if our generation reestablishes diplomatic relations and friendship.

Because America did so over the heads of Japan, I do not believe that Japan can be criticized for going ahead.

Takeiri: I believe power politics will make an appearance.

Zhou: The contradiction appears here.

Takeiri: Politically, we must end the age where the opposition party has opposed the Liberal Democratic Party.

They oppose for the sake of opposition. I believe we must actually have an opinion. We must also strengthen connections between opposition parties.

Zhou: Support it if it correct, and criticize it if it is incorrect. It is necessary to make advances in such a manner. The development of the economy is one great challenge.

Takeiri: It is the greatest challenge.

Zhou: It is a problem on a global scale. It is a problem for Europe, as well.

Takeiri: I think that Japan's industrial structure requires drastic reforms. You said last year that the countries of Asia must not be made into the food supplying countries of Japan.

Zhou: Exactly. Purchasing power must be gained. To have eggs, one must keep many chickens.

Takeiri: The public must cooperate with regard to the pollution problem, as well.

Zhou: The nation must raise a certain amount of money, entrepreneurs will also have a responsibility to give money, and the greater public will have the role of monitoring this process.